

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00784

研究課題名（和文）アジア系「湾岸アラブ諸国型移民二世」のシティズンシップと生存戦略の研究

研究課題名（英文）Long-Time Temporariness and the Quest for Citizenship: A Study of Second-Generation Asian Gulf Migrants

研究代表者

細田 尚美（Hosoda, Naomi）

長崎大学・多文化社会学部・准教授

研究者番号：70452290

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,500,000円

研究成果の概要（和文）：グローバルな人の移動が急増する現在、国家の枠組みの中で発展してきたシティズンシップの概念が世界各地で揺らぎ始めている。本研究は、その顕著な例として、一時的滞在の外国人とその家族が多い湾岸アラブ諸国のアジア系移民二世に注目した。かれらは、シティズンシップ取得の見込みの全くない湾岸アラブ諸国も、治安や生活環境が格段に悪く、社会保障も十分整っていない親の出身国（国籍上の本国）も自分の最終的な居場所と考えられず、明確な足場をどの国にも持たない。かれらの考え方や生存戦略は一般の「移民二世」という概念でとらえきれないため、transnational generationという新たな分析概念を打ち出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、大量の一時的身分の外国人労働者を有する湾岸アラブ諸国で育つアジア系移民二世の特徴的なシティズンシップに対する考え方と生存戦略を明らかにしたことで、現代の移民とシティズンシップに関する学術的議論に新たな視点を投じた。

国際競争力を維持するために不足する労働力を一時的労働者で補おうとする政策は、日本を含む他の先進国や中進国でも今後いっそう増える。専門職などいわゆる「高度人材」への優遇措置として、高度人材外国人の家族同伴を認めるケースも増えている。本研究は、そうした他の国々にとって社会の将来像を見定めるうえでの重要な参照例となりえることから、広い社会的意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：This research project has investigated 'notions of belongings' and experiences concerned with rootedness among the second generation Asian migrants residing in the Arab Gulf states where the majority of the population are non-nationals, mostly from Asia. It was revealed that neither their country of residence that is unwilling to provide citizenship, nor the parents' country of origin (country of their passport) where they find security and living conditions are far too poor, are attractive to many of them as the countries they want to live eventually. Accordingly, their educational and career strategies are set for acquiring ways to immigrate to third countries where they can possibly be citizens and lead comfortable and peaceful lives. These findings will be an important reference point to any country which accept migrant workers on a temporary basis but with some measures to keep them long-term, by showing what will be social and cultural outcomes of such migrant labor policies.

研究分野：移民研究、文化人類学

キーワード：湾岸アラブ諸国 移民二世 アイデンティティ 国際高等教育 グローバリゼーション 国際労働力移動 シティズンシップ 移民受け入れ政策

1. 研究開始当初の背景

湾岸アラブ諸国はバハレーン、クウェイト、カタル、オマーン、サウディアラビア、アラブ首長国連邦 (UAE) の 6 カ国からなる地域である。ここは、世界銀行による統計で 2900 万人の移民を受け入れており、北米、欧州とならんで、世界の三大移民受け入れ地域の一つとなっている。また、総人口に占める移民の割合に注目した場合、湾岸アラブ諸国はその人口の 56% が移民であり、世界一、移民の割合が高い地域となっている。下の図に示すように、カタルや UAE では人口の約 9 割が外国人が占める。この地域は、世界でもまれな「多外国人国家」と呼ぶことができる。

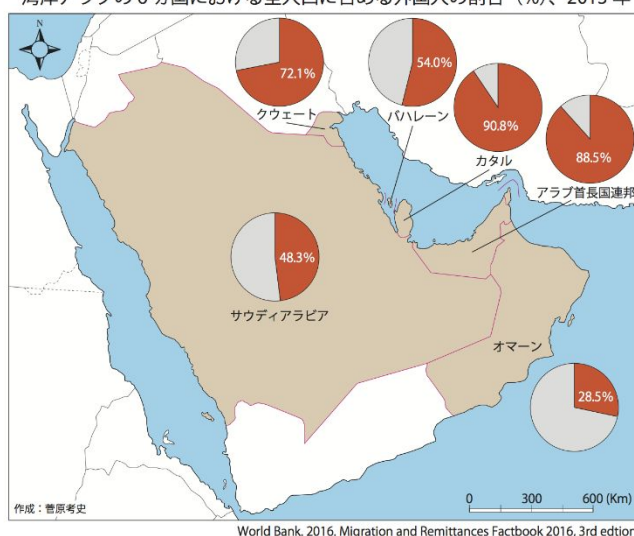
湾岸アラブ諸国のもう一つの特徴として、移民のほとんどが一時的な滞在者であることが挙げられる。自国民と国際結婚した外国人など少数の人を除けば、外国人は 2 年程度の短期契約雇用の一時的労働者か、その家族である。契約が更新されなかったり、契約途中で解雇されたりした場合、すぐに家族とともに国を去らなければならない。移民の定住を拒む湾岸アラブ諸国において外国人がシティズンシップを得られる可能性は皆無に近い。

しかし現実には、湾岸アラブ諸国内に生活の基盤を築き、短期契約を更新し続け長期に滞在をする「長期一時滞在者」も多くなっている。一時的労働者の 3 割程度を占める専門職者や技術者には家族の同伴が認められるので、その結果、この地域で生まれ育つ移民二世も多い。

2. 研究の目的

本研究は、こうした背景を持つ、湾岸アラブ諸国在住のアジア系移民二世を対象とする。国際移民研究の分野では「出身国と移住国を一つとする社会空間の形成 (トランスナショナリズム)」や、「ある国から世界各地への離散定住 (ディアスポラ)」のように、世界のどこかの地点をイメージさせる概念が強調されてきたが、代表者・分担者はこれまでの調査研究から、湾岸アラブ諸国のアジア系移民二世の生活世界は、こうした概念では捉えきれないことを示した [Hosoda and Matsukawa, 2019] 続く本研究では、セイフティーネット、老後の保障等が移住先国の政府からも出身国の政府からも十分得られない湾岸アラブ諸国のアジア系移民二世のシティズンシップに対する考え方と生存戦略を考察する。

湾岸アラブの 6 カ国における全人口に占める外国人の割合 (%), 2013 年



3. 研究の方法

主な手法としては、湾岸アラブ諸国ならびに送り出し国でのアジア系移民二世やその家族、ならびに二世が通う教育機関の関係者に対するインタビュー、カタル大学でのアンケート調査、現地の省庁・大学などでの文献資料収集を用いた。

4. 研究成果

湾岸アラブ諸国在住のアジア系移民二世は、ホスト社会に包摂されないまま、国籍や民族ごとに分断された外国人コミュニティ内で育つといえる。公立学校には入れないため、外国 (欧米、インド、フィリピンなど) のカリキュラムの私立学校で学ぶ。また、コミュニティや学校から一歩出ると、世界各地のブランド製品や食品であふれるグローバル公共空間が広がっており、アラビア語ではなく英語で周囲の人たちとコミュニケーションをとっている。一方、かれらは家族と一緒に親の出身国、つまり国籍上の本国にたびたび帰省しているものの、湾岸アラブ諸国と比べると治安も生活環境も悪い本国に長期滞在しようとした場合、うまく適応できないケースが少なくない。

したがって、かれらの多くは、同一の国籍や民族でまとまる移民コミュニティには愛着を感じているが、シティズンシップ取得の見込みのない滞在国も、治安や生活環境が悪いうえに社会保障も十分整っていない本国も、最終的な居場所とは考えていない。かれらの教育やキャリアについての戦略は、第三国での将来的な居場所確保に向けて立てられることになる。

移民・難民の急速な増加で、従来の国境と国籍をベースとしたシティズンシップという考えかたが世界で揺らぎ始めている [Isin 他 2008]。湾岸アラブ諸国のアジア系移民のシティズンシップ議論には、アイワ・オンの「フレキシブル・シティズンシップ」の視点を取り入れ、UAE のドバイ在住インド人中間層のアイデンティティを文化的シティズンシップはインド、経済的自由はドバイにあり、UAE にシティズンシップがないことは問題視していない、と論じたネハ・ボラの研究がある [Vora 2013]。このような見方に対し、代表者・分担者らは、自分にとって意味のあるシティズンシップがないことが、湾岸アラブ諸国のアジア系移民二世にとっては無視できない不安要因になっていることを示した。そして、第三国移住にくわえ、世界各地で雇用を獲得するための高い文化的適応性やモビリティ(移動性)の維持、様々な人的ネットワークを駆使しての情報収集など、意味あるシティズンシップの無さに起因する不安要因を回避する生存戦略を生み出していることを明らかにした。湾岸アラブ諸国のアジア系移民二世は、親の本国と移住先国の二国の文化的背景を持ち、後者のシティズンシップを持つと考えられている一般的な「移民二世」という概念ではとらえきれないため、「Transnational Generations」という新たな分析概念を打ち立てた。この新たな概念で湾岸アラブ諸国のアジア系移民二世を分析した論文集 *Transnational Generations in the Gulf and Beyond* は、Springer 社の湾岸研究シリーズの一巻として 2023 年に刊行される予定である。

参考文献

- Hosoda, Naomi and Kyoko Matsukawa. 2019. 'This Is Our Home but We Cannot Stay': Second-Generation Asian Youth in Kuwait and UAE. In Lian Kwen Fee et al (eds.), *International Labour Migration in the Middle East and Asia: Issues of Inclusion and Exclusion*. Springer.
- Isin, Engin F., Peter Nyers, Bryan S. Turner, eds. 2008. *Citizenship between Past and Future*. Routledge.
- Vora, Neha. 2013. *Impossible Citizens: Dubai's Indian Diaspora*. Duke University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 御手洗明佳、中島悠介、柳田雅明	4. 巻 29
2. 論文標題 外国カリキュラムを提供する学校への公的関与のあり方に関する一考察 - ドバイ における学校監査を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要（別冊）	6. 最初と最後の頁 25～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 2件/うち国際学会 11件）

1. 発表者名 松川恭子
2. 発表標題 湾岸アラブ諸国生まれの「インド人」の教育とキャリア クウェートの事例を中心に
3. 学会等名 日本南アジア学会第32回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yusuke Nakajima
2. 発表標題 Motives for Choosing to Study in International Branch Campuses in Qatar: Focusing on Nationalities in “National-minority States”
3. 学会等名 The 5th Annual International Conference of the Gulf Studies Center, Qatar University, Qatar（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rohan D' Souza
2. 発表標題 Comments on transnational generations
3. 学会等名 The 5th Annual International Conference of the Gulf Studies Center, Qatar University, Qatar（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kyoko Matsukawa
2. 発表標題 The Dilemma of Being Gulf-born NRIs: An Analysis of Cases in Kuwait
3. 学会等名 The 5th Annual International Conference of the Gulf Studies Center, Qatar University, Qatar (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naomi Hosoda
2. 発表標題 Transnationalism and Intersectionality: Views and Experiences of Second-Generation Filipino Youth in UAE Cities
3. 学会等名 The 5th Annual International Conference of the Gulf Studies Center, Qatar University, Qatar (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akiko Watanabe
2. 発表標題 Privileged but Immobile: Citizenship and Career Path of the Youths of Bicultural Families in Kuwait
3. 学会等名 The 5th Annual International Conference of the Gulf Studies Center, Qatar University, Qatar (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松川恭子
2. 発表標題 「湾岸アラブ諸国生まれのインド人」であることのジレンマ：クウェートの事例を中心に
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yusuke Nakajima
2. 発表標題 Why Do They Study Arabic?
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松川恭子
2. 発表標題 湾岸アラブ諸国生まれのインド系移民第二世代の教育戦略：クウェートの事例からの考察
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細田尚美、松川恭子
2. 発表標題 最終的な居場所とシティズンシップを求めて 湾岸アラブ諸国のアジア系移民二世の生存戦略
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細田尚美
2. 発表標題 外国人の親とその子どもが直面する状況の理解に向けて
3. 学会等名 「優質幼児教育發展」學術研討會實務工作坊(台湾・嘉義大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細田尚美
2. 発表標題 Migrant Workers and the Gulf: Lives in Temporary Integration
3. 学会等名 Workshop on “ Twin Seas: The Persian Gulf and the Red Sea ” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Matsukawa
2. 発表標題 The Perpetuated “ In-betweenness ” Experienced by Gulf-born NRIs: Analysis of Cases in Kuwait
3. 学会等名 The 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naomi Hosoda
2. 発表標題 Localities, ‘ citizenship’, and coping strategies of OFW children raised in UAE cities
3. 学会等名 The 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiko Watanabe
2. 発表標題 “ We are a black sheep ” : the privilegedness and immobilities of young Filipino-Kuwaiti second-generations of bicultural families
3. 学会等名 The 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 松尾昌樹、森千香子、細田尚美、他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 移民現象の新展開（グローバル関係学第6巻）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>科研プロジェクトのホームページ「移民とシティズンシップ研究会」を通じての活動情報の公開 http://hosoda.hss.nagasaki-u.ac.jp/gulf_migrants/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松川 恭子 (Matsukawa Kyoko) (00379223)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	デスーザ ローハン (D' Souza Rohan) (60767903)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	
研究分担者	中島 悠介 (Nakajima Yusuke) (60780939)	大阪大谷大学・教育学部・准教授 (34414)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡邊 暁子 (Watanabe Akiko) (70553684)	文教大学・国際学部・准教授 (32408)	
研究分担者	後藤 真実 (Goto Manami) (90915357)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・特別研究員(PD) (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 The 5th Annual International Conference of the Gulf Studies Centre, Session 9 & 10	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 International Workshop on Migration and Citizenship Quests: Transnational Generations in the Gulf and Beyond	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------